

ローボード

(財)倉敷中央病院リハビリテーションセンター

西濱 修

【目的】

高次脳機能障害のある患者に対し、多様な症状(注意持続性・選択性、即時記録・再生能力の改善を目的に)に対応する為の治療器具として使用する。また、上肢機能障害のある患者に対し、目と手の協調性向上・両手動作の向上等、上肢機能向上目的に使用する。

【使用例、効果・目的】

使用例 :注意持続性・選択性の改善・向上目的に、実施。方法:5列×5列の穴(直径4mm)が開いた、40×45cmの大きさのボード(ボード上に1から25までの数字が順番に書いてあるシートをかぶせて使用)に、ペグ(マルカンボルト:4×30mm)を挿しておき、決まった順序で書いてある課題カードを見ながら、その数字に対応したペグの穴に、紐を順番に通していく(例えば、3 22 10 6 24 3というように。ちなみに、この数字をつないでいくと星の形になる)。

アレンジ例 :課題カードを数字ではなく、簡単な加減乗除の問題にしておく。そうすることで、計算課題の要素を組み込む事ができる。

アレンジ例 :即時記録・再生能力の改善・向上を目的に実施。課題カードの数字を一定時間(例えば10秒間)見て記憶し、その後、記憶を頼りに数字に対応したペグの穴に、紐を順番に通していく。

使用例 :注意持続性・選択性の改善・向上目的に、実施。方法:5列×5列の穴(ボード上にランダムに数字を書いてあるシートをかぶせて使用)に、決まった順序で数字が書いてある課題カードを見ながら、その数字の穴にペグを挿し、その後、ペグの穴に紐を通していく。

アレンジ :5列×5列の穴(ボード上にランダムに数字を書いてあるシートをかぶせて使用)に、1から順番に、数字を探索しながら25までペグを差し込み、その後、1から順番に紐を通していく。

アレンジ :ペグを差し込む所までは同じで、その後、紐を通す条件を奇数(または偶数)のペグに数字の小さい順に紐を通していく。

使用例 :主に注意持続性の改善・向上目的に実施。ボードにペグを挿しておき、OTRが手本カード(ペグの穴と同じ数だけドットが書いてある)にあらかじめ、水性マジック

で形を書いておく。そして、患者は手本カードを見ながら、ボード上のペグに紐を通して同じ形を作っていく。

アレンジ例 :即時記録・再生能力の改善・向上等を目的に実施。形が書かれた手本カードを一定時間(例えば10秒間)見て記憶し、その後、記憶を頼りにペグに紐を通してながら同じ形を作っていく。

使用例 :目と手の協調性向上・両手動作の向上目的に、単純に、ボードに挿してあるペグの穴に、紐を通していく。ボルトの大きさが段階付けが可能。

【適応症例】

高次脳機能障害(注意力障害)、脳卒中後片麻痺(軽度麻痺)、失調症等

【具体的な効果】

作業活動時の注意機能の向上。

【他の用具との比較】

全ての使用方法を試してはいないが、使用例と同じような訓練用具で、ランダムに穴の開いたボードにペグをさす課題があるが、それでは、どこまで挿し込んだかが分からなくなってしまうという事があったが、この器具ならば、紐を通してあるので、紐をたどればどこまで課題を遂行したかが、患者自身でも分かる。

【制作方法】

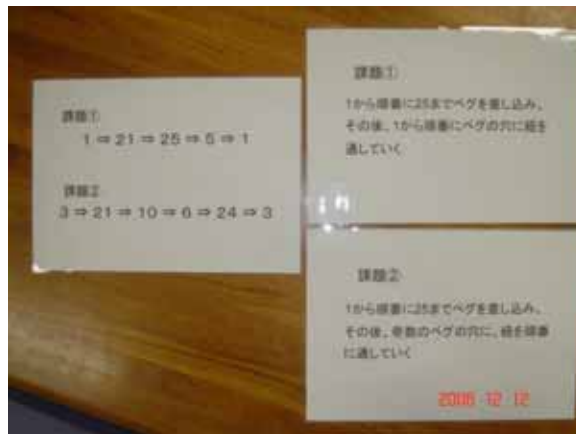
台をつけた板に、5列×5列の穴をあけて、1~25までの数字書き込んで穴を開けたクリアシートをかぶせ、マルカンボルトを挿し込めば完成。穴の間隔や、ボルトの大きさを変えることで紐を通す穴の大きさが変わるので、段階付けが可能だが、ボルトの大きさを変えると、太さも変わってしまうので、穴の大きさが変わってしまう。

【対象者の反応】

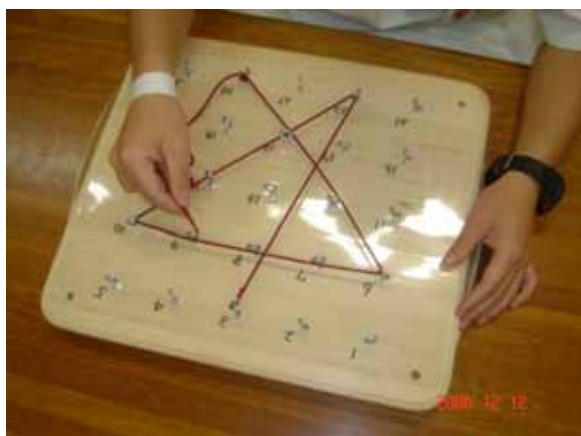
軽度USN・注意障害を呈している患者に、使用例と使用例のアレンジを実施してみたが、左側の探索に時間を要したが、予め25までの数字がある事を伝えて実施する為、中断することなく実施可能であり、注意障害だけでなく、USNの患者にも有効と思われた。



40×45cmの大きさのボード(ボード上に1から25までの数字が順番に書いてあるシートをかぶせた状態)に、5列×5列の穴(直径4mm)にペグ(マルカンボルト:4×30mm)を挿した状態



課題カード(例)



使用方法 実施風景:課題
3 22 10 6 24 3を実施している状況
完成形は星型になる



使用方法 実施風景:
アレンジ の紐を通す条件を、奇数のペグに数字の小さい順に紐を通す事を実施している状況



使用方法 実施風景:
手本カードを見ながら、ボード上のペグに紐を通して
手本カードと同じ形を作っている状況

手本カードは、ラミネート加工してあるので、
その都度、消して書き換える事可能。